

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.w.nc.or.jp/kai/gosi/p/nfonatipublic.do?JCD=2192200018&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

書道の講師を招き、定期的に書道教室を開くことで、古くからの馴染みのある習字を行っている。又、教室では、お手本を多数そろえ、自由に書きたい文字をご自分で選んでいただき、それをただ半紙に書くだけでなく、季節に合わせてうちわや色紙に書いたりといった一人ひとりおもしろい物を創作する機会をつくっている。 昨年の暮れには、翌年のカレンダーを作成し居室にかざっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりに寄り添ってじっくりとかかわり合う利用者本位のケアに取り組み、地域との関わりも大切にしている。管理者及び職員間のコミュニケーションが良く、活発な意見交換や職員の提案等から、常に改善が繰り返されている。浴室はつかまり棒やバスリフト、機械浴の設備も有り、身体状況に応じて、入浴を楽しむことができる。また、定期的な保育園児の訪問や、外部講師による書道教室、ペーパークラフトを楽しんでいる。利用者の希望把握に努めながら、外出や外食を実施して、単調な日々にならない工夫をしている。地域住民や消防署の協力の下、夜間を想定した避難訓練も実施し、安全対策を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ ホーム独自の理念・心得を制定し、月1回の会議で唱和することで職員間で共有し合い実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、それについて職員全員があらためて振り返り、『自分の思うこと』として文章にまとめた。利用者一人ひとりに寄り添い、じっくりと関わりながら、その人らしく生活できるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の保育園で行われるイベント行事に声をかけて頂き、参加したり、近所の喫茶店に出向いて、顔合わせや交流の機会をつくっている	自治会や保育園等、地域の行事に招かれたり、保育園児の定期的な訪問を受け、太鼓の演奏を楽しむ等、活発な双方向の交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、自治会や民生委員の方々へ生活状況や支援の取り組みについて紹介し相互理解が深まるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所報告書を作成し、サービスの状況を伝えると共に参加メンバーから質問や意見、要望を聞き、取り組めることから実行している。又災害時の対応についても自治会、消防署の方々と交えて話し合いを行い、実際に訓練にも参加して頂いている	運営推進会議では、自治会や消防署からの参加も得て、サービスの状況やアクシデントの報告をしている。また、地域住民との交流についてのアドバイスも得てサービスの向上に活かしているが、家族の参加が少ない。	利用者家族への参加を呼びかけ、家族からの率直な意見や希望を多く聞き、サービスの向上に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の介護認定調査などで来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について話をしたり、利用者の生活状況やニーズを伝え時には、アドバイスを頂くといった連携を図っている	高齢福祉課とは、認定調査の機会に訪問を受けたり、利用者の代行のために出向いた際に、掲示物や資料を話題に話し合ったり、相談したりできる良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したり、外へ出たいと要望があった時は、状況をみて声かけをし、一緒についていく等、安全面に配慮している	車の往来が多い立地のため、玄関は施錠しているが、常に目配り気配りをしながら、外出したい様子を見掛けたら一緒について外に出る等して、「鍵が窮屈」だとは思われないケアを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、見過ごされないよう日々のサービスを提供する中で、ケアを見直し防止徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、管理者が対応するが、他の職員にも、理解してもらう為に、他事業所で勉強会が行われている時は、声かけを行い参加を促している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアにや取組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、重度化や看取りについての対応方針、医療の連携体制、利用料システムについて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートの実施や玄関に意見箱を設置することで、苦情、不満はすぐ相談して頂けるよう 雰囲気づくりに努めている。又、事業所以外にも苦情窓口があり、気軽に相談して頂けるよう、日頃より声かけを行っている	職員は、日頃から気軽に相談できる雰囲気づくりに心掛けている。利用者アンケートを実施したが、未だ結果集計が完了していないため、家族の意見等に対してのフィードバックがされていない。	利用者アンケートの結果を集計し、また職員全員で話し合っ、結果を家族、外部へ表出して、そのフィードバックによる更なる改善に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見や要望を聞くようにしている。又、相談がしやすい雰囲気づくりに心掛けている	職員からは、意見や改善案が日常的に多く出され、安全のための浴槽のつかまり棒の設置や、居室入り口にクッションをつける等の工夫が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの改正点を説明し、職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう掲示や声かけを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は、関連の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事で、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と面談をし、心身の状態や家族関係生活暦を把握し、安心して入所して頂けるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を理解し、当ホームにおける対応システム等を説明し、どのような対応ができるかを話し合うことで安心して利用して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを職員間で認識し、利用者の話に耳を傾け、時には相談にのって頂いたり、共に支え合いお互い和やかな生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、家族と同じような思いで支援をしていけるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住んでいる家族や、古くからの友人・知人には、電話や手紙で連絡を取り合っている。又家族の協力をもとにかかりつけの病院へ受診に出かけたり、行き慣れたお店へ買い物にでかけれるよう支援している	馴染みの人の訪問もあるし、家族や友人に電話をかけたたり取り次いだり、また手紙で連絡を取り合う利用者の手紙の投函もして、交流継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせるようレクの時間を設けている。又、利用者同士の関係が、上手くいくよう、職員が調整役となり、一人ひとりが孤立せず支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設でのサービスが終了となった方や他施設へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、当施設での行事に参加して頂けるよう心がけている。又、これまでの支援内容を情報提供し、連携に心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向や希望をを把握し、できるだけ希望に添えるよう努めている	出掛けたい所や食べたい物等を事前に話題にし、メニューを取り寄せて、利用者を選んでもらっている。意向の把握が困難な人や、いつもと違う様子の時にも、的確に対応できるよう日頃から関わりを深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人らの協力のもとセンター方式などのアセスメントシートを作成 シートを活用し、これまでの暮らしを全員が把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの発言や行動など、一日の様子を個別に記録し、職員全員が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、カンファレンス時、職員間で意見交換・モニタリングを行い介護計画に生かしている	日々の関わりの中で意見や満足度を把握し、介護計画作成の会議では、担当職員をはじめ現場から上がる意見を話し合い、プランに沿っているかを確認し、変化を見逃さず身体機能を分析し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のその日の様子や気づいた事、又実践したケアなどを個別記録に記入し、勤務交代時には、申し送りを行い職員間で情報の共有、把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院・外出支援の送迎など柔軟な対応ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会や民生委員、市役所の方に参加して頂くことで、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように、また状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて、診察が受けられるよう支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医は基本的には家族が同行して受診するが、家族が行けない時や、毎週の通院になる歯科医等は事業所に対応することも有り、結果についての連絡は常に取り合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの表情の変化に気を配り 早期発見に努めている。変化に気づいた時は、直ちに看護師に報告し、看護師が不在時でも職員と看護師は連携を取る事で 適切な医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、看護師や職員で見舞・声かけを行うようにしている。又家族や主治医と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後が迎えられるよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる	本人や家族の意見を随時確認し合い、医療、介護の職員で連携を取りながら、意向に沿った支援に取り組んでいる。家族の宿泊も可能で、また他の利用者にも敢て隠すことはせず、仲良しの人達が希望すれば、順番にお別れできるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急法や蘇生術の勉強会を行い、救急隊が到着する前に職員全員が対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行い、災害時の避難経路の確認や消化器の使い方などの訓練を行っている。又災害時には、自治会の協力が得られるよう会議時に、自治会長や民生委員の方に声かけを行っている	運営推進会議の後に夜間想定も含めて、連絡網の確認や避難訓練を行っている。自治会長や民生委員、利用者も一緒に、けむり体験器や消火器の扱い等に参加している。また、水、おむつ、食品類を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に言動や対応に注意し、情報収集や外部との連携の際には、個人情報・プライバシーの保護について意識し取り扱いには注意をしている。又、自尊心を傷つけないようにその方々にあった声かけをするように心掛けている。	トイレの誘導にはさりげない声掛けを行い、常に利用者のプライドやプライバシーに配慮し、深押しするよりは、一歩引いて別の職員に交代するなどの工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いを表出しやすく、又自己決定できるような雰囲気、場面作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分に合ったペースでその人らしくすごせるよう利用者の意向を最優先している 職員側で不都合が生じた時は、本人と話し合っ て決めるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一ヶ月に一度美容師の訪問があり、利用者は好みのヘアスタイルを相談して決めている。又、本人の好みに合わせて、起床、入浴、外出時などは、本人のこだわりを大切に、その人らしさを保てるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の献立を相談したり、手伝いや後片付け等、一緒に取り組んでいる 又食材や調理方法は、本人の好みに合うよう工夫し、食事時は一緒に食事を取りながら楽しい時間を共有している	くわいの皮むきやモヤシのひげ取り等、下準備を共に行い、職員も一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる。また、利用者の誕生日には外食に出掛けることにして、利用者自身が食べたい物を選んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量が把握できるよう記録し、健康状態に注意している。又、定期的に献立を栄養士の方に見て頂き、栄養管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけを行い、洗面所にて、できる力に応じて見守りや一部介助を行い口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、状況を把握し、適切な援助をすることで、本人の排泄習慣が守られるよう支援している。またADLにに応じて、日中は布パンツ、トイレでの排泄など自立にむけた支援を行っている。	日中は紙パンツで、さりげない声掛けによるトイレ誘導に努め、夜間はポータブルトイレを利用して、おむつの使用を減らし排泄の自立に向けた支援をしている。実際におむつが取れたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、適切な水分補給、食材の工夫、自然排便に向けての腹部マッサージなど個々に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を把握し、本人の希望に合わせて入浴ができるよう支援している	希望があれば休日も含め、毎日の入浴も可能である。つかまり棒やバスリフト、機械浴の設備も有り、入浴を楽しむことを大切にしている。入浴拒否の場合は、無理強いをせず、介護者を交代したり、声掛けに工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、生活リズムを壊さないよう利用者に合わせ、日中でも休息がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の用法・効能・注意点等をいつでも見れるようファイル作成してある。又、服用時には、名前・日付を確認し、側にいて飲み込み確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活リズムを尊重し、家事などできそうな方には行って頂く事で、その方の力を引き出し、活かしていけるよう支援している。又、外食やレクなどを行い気分転換を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節のイベントへの参加など、事前に計画を立て、家族や職員間で連携を図り、一緒に楽しく外出できる機会を作っている	ドライブや喫茶店、外食等、希望に合わせて計画的に、また当日急にでも行きたい希望があれば出掛けている。ホーム周りの散歩は日常的に行い、ユニット毎に花見等に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、能力に応じて自己管理の援助を行っている 必要な物品などは、職員と一緒に買い物にでかけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話ができるように対応している。又、家族の方からいつでも電話をして頂けるような雰囲気づくりに努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどは、花や手作り作品を飾り、季節感が味わえるよう取り組んでいる 又、室内の温度など空調管理に配慮し、利用者一人ひとりが快適に居心地よく過ごせる環境整備に努めている	廊下は日差しが入り明るく山が見え、ゆったりと過ごすことができる。食堂には利用者の作品、習字やペーパークラフトを飾っている。冬場は加湿器使用で乾燥を防ぎ、暑かった去年は、エアコンの追加設置も行い、状況に合わせて居心地良く暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングなど、日当たりの良い所にソファを設置し、いつでも座って談話や景色が眺められるよう空間づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を取り入れ、馴染みの家具などを置き、その人らしくゆったりとした気持ちで過ごして頂けるよう心掛けている	自宅から持参の絨毯や椅子、時計、家族との写真を飾り、ハンガー掛けには洋服が並び、好きな物を選ぶことができる。また、畳敷きの和室も有り、利用者の希望や身体状況に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状況に合わせて、手すり等の設置場所を工夫するなど、環境にも配慮し、自立した生活が送れるよう支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ ホーム独自の理念・心得を制定し、月1回の会議で唱和することで職員間で共有し合い実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の保育園で行われるイベント行事に声をかけて頂き、参加したり、近所の喫茶店に出向いて、顔合わせや交流の機会をつくっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、自治会や民生委員の方々へ生活状況や支援の取り組みについて紹介し相互理解が深まるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所報告書を作成し、サービスの状況を伝えると共に参加メンバーから質問や意見、要望を聞き、取り組めることから実行している。又災害時の対応についても自治会、消防署の方々と交えて話し合いを行い、実際に訓練にも参加して頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の介護認定調査などで来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について話をしたり、利用者の生活状況やニーズを伝え時には、アドバイスを頂くといった連携を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したり、外へ出たいと要望があった時は、状況をみて声かけをし、一緒についていく等、安全面に配慮している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、見過ごされないよう日々のサービスを提供する中で、ケアを見直し防止徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、管理者が対応するが、他の職員にも、理解してもらう為に、他事業所で勉強会が行われている時は、声かけを行い参加を促している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアにや取組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、重度化や看取りについての対応方針、医療の連携体制、利用料システムについて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートの実施や玄関に意見箱を設置することで、苦情、不満はすぐ相談して頂けるよう 雰囲気づくりに努めている。又、事業所以外にも苦情窓口があり、気軽に相談して頂けるよう、日頃より声かけを行っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見や要望を聞くようにしている。又、相談がしやすい雰囲気づくりに心掛けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの改正点を説明し、職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう掲示や声かけを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は、関連の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事で、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と面談し、思いや不安、要望を傾聴、安心感を持ち入所できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯を把握し、家族の抱える不安や要望を傾聴、その思いを共感を持って理解し信頼関係を築く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況から、必要とする支援を見出し、相談しながら、時には他のサービス利用も含めた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしから、本人の思いや不安、喜び、楽しみなど共に分かち合い、支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時本人の状況を連絡し、情報を共有、協力関係を築き、共に本人を支えていくよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、本人の生活歴を把握し、よく通っていた喫茶店、知人に会うなどかわりの継続を支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や趣味を把握し、日々の変化に応じて関わり合い、支えあう関係が保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も関わりを必要とする本人、家族には相談や支援などフォローし、関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を日々の関わりから把握し、本人にとって最善な支援に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人らの協力のもとセンター方式などのアセスメントシートを作成 シートを活用し、これまでの暮らしを全員が把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状況など個別記録に記入し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、モニタリングを実施、職員間で意見交換を行い現状に合った介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況、提供したケアサービス、エピソードなどを個別記録に記入、また申し送りノート、勤務交代時の申し送りなど職員間の情報の共有、把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、ニーズに応じて、柔軟な支援が実践できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では民生委員や自治会長と話しあい、地域の中で安心して暮らせる意見・情報交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように、また状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて、診察が受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの表情の変化に気を配り 早期発見に努めている。変化に気づいた時は、直ちに看護師に報告し、看護師が不在時でも職員と看護師は連携を取る事で 適切な医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、看護師や職員で見舞・声かけを行うようにしている。又家族や主治医と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後が迎えられよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急法や蘇生術の勉強会を行い、救急隊が到着する前に職員全員が対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行い、災害時の避難経路の確認や消化器の使い方などの訓練を行っている。又災害時には、自治会の協力が得られるよう会議時に、自治会長や民生委員の方に声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議で情報を確認、共有し、勉強会を定期的に行って意識の向上に努めている 自尊心に配慮し、一人ひとりに合った声かけ、対応を支援している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人がやりたい事、望んでいる事など思いを表出したり、自己決定できるような雰囲気、場面作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分に合ったペースでその人らしくすごせるよう利用者の意向を最優先している 職員側で不都合が生じた時は、本人と話し合っ て決めるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理容があり、利用者は好みのヘアスタイルを美容師と相談して決める おしゃれは、本人の好みを把握し、起床、入浴、外出時など、一緒に服を選ぶなど支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作り、一人ひとりの好きな物や持っている力を把握、食材や調理方法を工夫している 準備や片付けなどできるだけ参加し、会話を楽しみながら一緒に食事をとっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎回個別記録に記入し、職員間で把握、健康状態、習慣に応じた支援を行う また、定期的に栄養士による栄養管理を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じ、声かけや介助等支援し、清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄サイクル、状況を把握し、適切な援助にて本人の排泄習慣が守られるよう努めている。またADLに応じて、日中は布パンツ、トイレ使用など自立支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、適切な水分補給、運動による腹圧強化、食材の工夫、自然排便に向けての腹部マッサージなど個々に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調、生活習慣に配慮し、職員とのかかわりを楽しみながら、ゆったりと入浴できるよう支援している。休みの場合も本人の希望があれば、応じるよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣、希望を考慮し、本人に合ったペースで睡眠がとれるよう支援している。日中も心身の負担を軽減する為、休息する時間を持っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について職員全員が把握し、与薬は名前、日付、時間を確認、見守りや介助にて服用を行っている。症状の変化においては、看護師と常に連携し、迅速に対応するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートに生活歴や得意なことなど記入し、本人に応じた役割を支援、達成感や充実感の獲得を図る。また、行事や外食、レクなどでかけ、気分転換や楽しむ機会を持っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調、天候に合わせ、外出支援を行っている。行き先に応じて家族やボランティアの参加など協力体制をとり、一緒に楽しむよう支援している		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、能力に応じて自己管理の援助を行っている 必要な物品などは、職員同伴で買い物にでかけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に対応し、随時、電話ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど共用スペースには、花や手作り作品を飾り、季節感を味わうよう取り組んでいる 温度など空調管理、採光など配慮し、利用者一人ひとりが快適に過ごせる環境整備に努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングの適所に一人掛けや二人掛けのソファやいすを設置し、好きな時間に座り、談話や景色を眺めるなど気ままに過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライバシーに配慮し、本人が居心地良く過ごせるよう、本人、家族と相談しながら、なじみの物や好みの物を置いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に配慮し、本人の残存能力を活かしながら、安心して毎日が送れるように支援している		